

必読!

うちの方向け まるわかりブック

公立高校入試制度 最新ガイド



公立高校入試の制度は、 どんどん変化しています

公立高校入試については、2つの「意外」があります。1つは「公立高校入試の制度は、都道府県ごとに大きく異なる」。もう1つは「公立高校入試の制度は、しばしば変更される」です。

「主に学力検査と調査書によって合否を判定する」という基本構造は共通しています。しかし、試験日や出願手続きなどはもちろん、学力検査と調査書の比率や、評定の評価の対象となる学年、選抜方法、学力検査以外に課されること（面接、小論文など）は、都道府県や学校によって大きく異なります。

また、下の表でもわかる通り、制度の変更もしばしば行われます。最近では、受験生の負担軽減や教員の働き方改革への対応として、複数設定されていた選抜方法が一本化されたり、「学力」以外の特性も多面的に評価するために「特色選抜」を導入したり、出願

A この10年間に
47都道府県のうち半数以上で、
何らかの変更がありました。

Q 公立高校入試の制度って、
そんなに変わるの？

2019～2028年度までの10年間に
公立高校入試の制度で変更があった／予定されている都道府県

入試年度	都道府県
2019	東京都、奈良県
2020	宮城県、福島県、佐賀県
2021	千葉県、長崎県
2022	北海道、千葉県*
2023	東京都*、愛知県、広島県
2024	群馬県、千葉県*、神奈川県
2025	岩手県、長野県*、和歌山県、島根県、広島県、愛媛県、長崎県、沖縄県
2026	山形県、埼玉県、千葉県、新潟県、滋賀県、奈良県、山口県
2027	栃木県、埼玉県、新潟県、京都府、熊本県
2028	大阪府

*入試問題に関わる変更

変更は多いけど、結局似たようなものになっているんじゃない？

とんでもない！ 都道府県や学校によって結構違うんです。

